

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援あいほっぷ		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団療育(10名定員)の中で個別療育を行っている。	個々の年齢や特性等に合わせた2～3名程度のグループで個別療育を行う事で、より本人に合った療育を受ける事が出来る。また、就学前に適した支援を行う事が出来る。	状況に応じて、1対1の個別療育も行っているが、更に充実した個別療育を行える仕組みを模索中。
2	独自の療育指示書(月1回の見直し)を用いている。 「療育指示書」とは:個別支援計画を元に作成した、更に細かい「短期目標」を指導員に指示した書類のこと(最終的に個別支援計画の目標達成が出来る為のものであり、職員もそれを意識した療育を行う事が狙い)	利用者を担当制(3カ月毎に変更)で分け、より利用者の個々の特性・性格を把握し、療育指示書に沿った療育はもちろん、新たな課題や達成した事項等、ミーティングや書類等で、共有しやすい環境に取り組んでいる。	家庭での様子等も踏まえながら、更なる療育の充実を図る。
3	毎日の戸外療育を行っている。	毎日のお散歩(交通ルール)や、定期的な公園での戸外遊びを取り入れ、地域の人や環境と交流を図っている。	事業所近郊の地域交流を更に深めていく取り組みを進めている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園庭(運動できるスペース)が無い。	事業所の目の前が駐車場の為、園庭を作るのが難しい。	定期的な戸外遊びで公園などに行き、身体を動かす。また、室内での体操を増やし、運動不足を解消している。
2	保護者様参加型のイベントや、保護者会が少ない。	物理的に療育時間・曜日の自由な時間を取り入れにくい。	事前の保護者様への周知とアンケートで、イベントのお知らせや集まれる日程の確認を行い、年間でのイベントを増やす工夫をしていく。
3	家庭での悩みや助言の充実。	お客様相談窓口の周知の低さ又は、連絡のしづらさ。	口頭での周知はもちろん、玄関前に相談窓口の内容を張り、LINEやメールでの気軽な質問や相談から、電話や直接的な相談までをいつでも問い合わせる事が出来る環境を作っていく。